

希少疾病治療薬めぐり議論

「希望持てる名称」探る

高北石明で
ワークショップ

患者数が国内で5万人未満の希少疾病を治療する医薬品について考えるワークショップが11日、明石北高校（大久保町松陰）であった。生徒は、需要が少なく収益を見込めない薬が「オーファン（孤児の）ドラッグ」と呼ばれていることを教わり、患者らが前向きになれる新たな名前を出し合った。

（井原尚基）

希少疾病や難病の患るNPO法人「オール画。大学の理系学部などへの進学を目指している2年生35人が参加した。

同法人理事の麻生陽子さん(49)らは、一つの薬を開発するために一般的に数百億円以上の費用が必要になる現状を説明。「国などの助成制度はあるが、製薬会社は投資費用を回収しづらい新薬をつくりにくい実情がある



希少疾病用医薬品の新しい名前を考える生徒ら―明石北高校

「と述べた。生徒らは、希少疾病用医薬品にふさわしい名前を検討。辞書などを片手にグループで話し合い「ホープフル（希望に満ちたドラッグ）」「プロミシング（将来有望な）」「メデイシン（薬）」といった名前を挙げて発表し合った。

同法人は今後も各地の高校などで同様の取り組みを行う予定。薬学部への進学を考えている西谷泉水さん(16)は「二見町西二見」は「オーファン」ドラッグ

の問題を初めて知っている人がいることを頭話した。同法人07た。新しい薬を求めてに入れておきたい」と8・241・7500

全国総体・定通制大会出場へ

選手ら31人活躍誓う

相生町で激励会

全国高校総合体育大会(インターハイ)と、全国高校定時制通信制体育大会に出場する選手・監督の激励会が11日、明石市相生町2の市立勤労福祉会館であった。

市内からは陸上、卓球、重量挙げ、ライフリングに7校計31人の選手・監督が出場。監督に紹介され、選手が一人ずつ抱負を語る



全国大会に向け力強く意気込みを語った選手ら＝明石市立勤労福祉会館

と、高橋嗣郎副市長らが「鍛錬の成果を出して」とエール。選手代表の明石城西高3年の藤原伸哉君(18)が「感謝を忘れず、精いっぱい頑張りたい」と決意を述べた。

インターハイは26日から東京都や山梨県などで開催。全国定時制通信制大会は8月22日、東京都などで行われる。(広畑千春) 出場選手は次の通り。(敬称略) 【インターハイ】陸上 大柿泰知、武藤さくら子、荒木志帆(以上明石商) 谷下潤(明石南) 矢嶋隼也(明石西) 藤原伸哉(明石城西) ▽卓球 繁田朱音(明石商) ▽重量挙げ 澤田陸、中崎翼、今田泰誠、吉川紗耶香(以上明石南) 藤川卓巳、日下部亮太(以上明石北)